

科目名	解剖学
授業形態	講義(テキストとスライドによる講義)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	田松 裕一

学習目標 解剖学は生理学とともに医学の基礎をなす学問であり、人体各部の構造と形態を理解することを目標とする
超高齢社会において種々の疾患を持った患者と接する上で、歯科衛生士も口腔のみならず全身の構造を理解することが求められる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	解剖学総論	人体の部位と区分、断面と方向用語、姿勢	解剖学の基本的な用語と体の基本的部位を説明できる
2	運動器系(骨学1)	骨の形態と構造、骨の成長と代謝、骨格の構成	骨格の構成と骨の構造・機能を説明できる
3	運動器系(骨学2)	身体各部の骨の名称、関節の構造	各部の名称(特に頭蓋骨)と関節の構造を説明できる
4	運動器系(筋学1)	筋の形状・構造、起始・停止	筋の種類・構造と機能を説明できる
5	運動器系(筋学2)	主な骨格筋・表情筋の名称と働き	主な筋(特に咀嚼筋と表情筋)の名称と働きを説明できる
6	循環器系1	血液循環と血管の構造、心臓の形態と機能	全身の血液の循環と心臓の形態を説明できる
7	循環器系2	主な血管系(動静脈)とリンパ管・リンパ節	主な血管系とリンパ系の走行を説明できる
8	神経系1	総論、中枢神経(脳、脊髄)	神経系の構成と神経組織、中枢神経の働きを説明できる
9	神経系2	末梢神経(脳神経、脊髄神経、自律神経系)	末梢神経(特に脳神経)と自律神経の走行と働きを説明できる
10	消化器系	口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓・胆嚢、膵臓	消化器系を構成する器官の形態と機能を説明できる
11	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺の形態と機能	呼吸器系を構成する器官の形態と機能を説明できる
12	泌尿生殖器系	腎臓、尿管・膀胱・尿道、男性・女性生殖器	泌尿器・生殖器を構成する器官の名称と働きを説明できる
13	内分泌系	内分泌器官の構造と主なホルモン	主な内分泌器官とホルモンの名称と働きを説明できる
14	感覚器系	特殊感覚(視覚、平衡聴覚、味覚、嗅覚)、一般感覚(外皮)	感覚器のそれぞれの機能を説明できる
15	まとめ	まとめと復習	人体の構造と形態を器官系ごとに説明できる

評価方法 定期試験による学科試験(筆記試験)を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は歯科医師として実務経験のある教による授業である

科目名	組織・発生学
授業形態	講義(教科書をベースに、スライド及びプリントで内容を補充して行う)
開講時期	1年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	千葉 紀香

学習目標 歯科の臨床で遭遇する口の中の様々な現象を理解する基盤として、からだや口・歯の構造と発生の基本的事項について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	細胞と組織	イントロダクション、細胞の構造	組織・発生学と臨床歯科との関連を理解する。細胞の構造を理解する
2	細胞と組織	組織の分類、各分類の特徴	組織の四大分類と、各分類の特徴を理解する
3	細胞と組織	皮膚と粘膜の構造	皮膚と粘膜の構造の共通点と相違点を理解する
4	発生	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の発生について理解する
5	口腔組織	エナメル質と象牙質の構造	エナメル質、象牙質の性状と組織構造について理解する
6	口腔組織	歯髄、セメント質、歯根膜の構造	歯髄、セメント質、歯根膜の性状と組織構造について理解する
7	口腔組織	歯槽骨と歯肉の構造、歯の萌出	歯槽骨、歯肉の性状と組織構造、歯の萌出について理解する
8	発生	精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成	生殖細胞の発生から、受精と胚葉の形成までの概略を理解する
9	発生	胎児の成長と発育、骨の発生、顔面の発生	胎児期の成長発育の概略、骨と顔面の発生について理解する
10	発生	口腔の発生	口腔の諸器官の発生について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版株式会社)

・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)

・配布プリント

実務経験

科目名	生理学・口腔生理学
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間 2単位
授業担当者	下田平 幸一

学習目標 歯科衛生士は全身及び口腔領域の諸器官が、どのように機能し、どのように維持されているかを知る
全身及び口腔領域の諸器官がどのように働き、その仕組みはどのようにになっているのかを理解できるようにする

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	生理学の総論	生理学を学ぶことの大切さ	生理学の概要、学ぶ必要性について理解する
2	細胞、血液	細胞の構造、血液の働きと機能	細胞の構造、基本的機能、血液の成分、働き、血液凝固因子、出血傾向等について理解する
3	循環	循環器官の概要と機能	心臓の構造と働き、心臓の自動能、心電図、血管の機能について理解する
4	呼吸	呼吸の役割	呼吸運動、呼吸器の構成、換気の仕組み、ガス交換、呼吸の調整等について理解する
5	筋	筋肉の機能	筋の種類と機能、収縮様式、筋電図、骨格筋、平滑筋、心筋の概要について理解する
6	神経	神経の概要と機能	神経系の分布、基本的機能、体性神経、自律神経、中枢神経の概要について理解する
7	感覚	感覚の概要と役割	感覚の基本的性質、特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の概要について理解する
8	消化・吸収	消化・吸収のメカニズム	消化と吸収の意味、胃・小腸・大腸の働きについて理解する
9	排泄	排泄のメカニズム	排泄、皮膚からの排泄、排尿について理解する
10	体温	体温の調節機能	体熱の生産・放散・調節・体温の変動について理解する
11	内分泌	分泌されるホルモンの名前と働き	内分泌器官とホルモン、甲状腺と上皮小体、下垂体と視床下部、歯とホルモン等について理解する
12	生殖	生殖機能の役割とメカニズム	女性の生殖機能、性周期、受精と妊娠、分娩と乳汁分泌について理解する
13	歯の生理	口腔生理学と必要性	口腔生理学の意味、必要性、歯の硬組織の生理、歯の化学的性質について理解する
14	歯周組織の生理	歯周組織に関する生理学	歯髄、歯周組織の生理、歯の動揺度、歯間離開度について理解する
15	咬合	咬合のメカニズム	咬合、下顎位、下顎の運動、限界運動、顎反射について理解する
16	咀嚼	咀嚼の意義とメカニズム	咀嚼、咬合力と咀嚼力、咀嚼の能力について理解する
17	嚥下・口呼吸	嚥下と口呼吸のメカニズム	吸引、嚥下、嘔吐、口呼吸、口臭について理解する
18	歯と口腔の感覚	歯と口腔の感覚機能	歯の感覚、口腔粘膜の感覚、味覚について理解する
19	唾液	唾液の機能、分泌	唾液の分泌機構、唾液の性状、成分、働き、唾液と疾患について理解する
20	発声	発声のメカニズム	発声機構の概略、喉頭の機構、音声の生成、言語音の形成等について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版株式会社)
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・本科目は歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	生化学・口腔生化学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	千葉 紀香

学習目標 生命現象の分子機構と、口腔の主要な生化学的特徴を理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	生命活動の概要	生体の構成要素	生命の基本となる細胞の構造、細胞小器官の働き、体内の水、生体構成成分について理解する
2		生体における化学反応	細胞内外で起こる化学反応(消化、吸収、エネルギー生成)について理解する
3		糖質と脂質の代謝	生体内で起こる物質の代謝やエネルギーを作り出す仕組みについて理解する
4		タンパク質とアミノ酸の代謝 生体における恒常性の維持	体内の内部環境が安定に維持される恒常性を理解する
5	歯と口の生化学	歯と歯周組織の生化学	歯と歯周組織の構造や成分について説明する
6		硬組織の生化学	歯と骨などの硬組織について理解を深め、主要構成成分であるカルシウムやリン酸の体内での動態などを説明する
7		唾液の生化学	唾液中の無機質、有機質について理解する
8		プラークの生化学	齲蝕あるいは歯周病とプラークの関わりを理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

科目名	口腔解剖学・歯牙解剖
授業形態	講義(テキストやスライドを用いた講義)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	60時間 2単位
授業担当者	米田 雅一

学習目標 口腔の周辺の各器官の形態や構造、歯の構造や種類を正しく覚える

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	口腔とは、口腔付近の表面	消化器系の最初の器官である口腔の入り口の構造、形態を理解する	口腔の周辺の各器官の形態や構造、歯の構造と種類および機能を歯科医学の特殊性に基づいて習得する
2	口腔前庭	口腔前庭にある構造物を知る(口唇、頬、歯肉)	口腔内の構造及び神経の種類を習得する
3	固有口腔	固有口腔にある構造物を知る(口蓋、口腔底)	口腔内の構造及び神経の種類を習得する
4	舌	舌の構造、筋、神経支配について	舌の構造、筋および神経支配について理解する
5	頭蓋骨の概要1	頭蓋の前面、上面や後面の構造と名称	頭蓋骨の周辺の各器官の構造を習得する
6	頭蓋骨の概要2	頭蓋の側面、下面、内面の構造と名称 頭蓋底に存在する様々な孔について	頭蓋骨の周辺の各器官の構造を習得する
7	口腔を構成する骨1	上顎骨、口蓋骨にみられる構造と名称	上顎骨・口蓋骨の構造と名称を習得する
8	口腔を構成する骨2	下顎骨と舌骨にみられる構造と名称	下顎骨、舌骨の構造と名称を習得する
9	頭頸部の筋と作用	表情筋、舌骨上筋の起始、走行と作用を学ぶ 咀嚼筋の起始、停止、作用、神経支配と顎運動との関連	表情筋、舌骨上筋の走行と作用を理解する 咀嚼筋の構造と神経支配と顎運動との関連を理解する
10	顎関節	顎関節の構成と下顎運動について	顎関節の構造と下顎運動を理解する
11	口腔付近に分布する動脈	外顎動脈を中心とした動脈の走行と分布	口腔付近の動脈の走行と分布を理解する
12	口腔付近の静脈、頭頸部のリンパ系	口腔付近の静脈の走行と分布 リンパ節の構造と作用、頭頸部のリンパ流について	口腔付近の静脈の分布を理解する 頭頸部のリンパ系の構造を理解する
13	脳神経、三又神経	神経の機能と構造の概略を知り、脳神経の分岐を学ぶ	神経・脳神経の機能と構造を理解する
14	顔面、舌咽、迷走、舌下神経	各々の脳神経について学ぶ	各脳神経の構造と機能を理解する
15	脊髄神経、自律神経	自律神経の大別とそれぞれの拮抗的作用について	自律神経の拮抗的作用について理解する
16	歯の概論・定義、起源、機能、種類と名称	歯の定義、起源、機能を理解し、歯の生歯・形態による分類と名称を学ぶ	歯の定義と構造と名称を習得する
17	歯の記号、歯式、用語	歯の記号、歯式、歯の解剖に用いる方向、形態に関する用語を学ぶ	歯の記号・歯式・用語を習得する
18	歯の形態、表徴、外観内観、支持と固定	歯の近心、遠心を決定に用いるミュールライターの3表徴、歯髓腔、根管の形態と用語を理解する	歯の構造と種類及び機能を習得する
19	永久歯の特徴、上顎切歯	永久歯の特徴、上顎切歯の形態的特徴を学ぶ	永久歯・上顎切歯の特徴を学ぶ
20	下顎切歯、前歯の臨床解剖	下顎切歯の形態的特徴、切歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	下顎切歯の特徴および上下顎切歯の臨床解剖的問題点などを理解する
21	上下顎犬歯、犬歯の臨床解剖	上下顎犬歯の形態的特徴、犬歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	上下顎犬歯の形態的特徴、臨床解剖的問題点を理解する
22	上顎小白歯	上顎小白歯の形態的特徴を学ぶ	上顎小白歯の形態的特徴を理解する
23	下顎小白歯、小白歯の臨床解剖	下顎小白歯の形態的特徴、小白歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	下顎小白歯の形態的特徴と上下顎小白歯の臨床解剖的問題点などを理解する
24	上顎大白歯	上顎大白歯の形態的特徴を学ぶ	上顎大白歯の形態的特徴を理解する
25	下顎大白歯	下顎大白歯の形態的特徴を学ぶ	下顎大白歯の形態的特徴を理解する
26	大白歯の臨床解剖	大白歯の臨床解剖的問題点などを学ぶ	上下顎大白歯の臨床解剖的問題点を理解する
27	乳歯の特徴と永久歯との比較	乳歯と永久歯と比較し、その形態学的特徴を学ぶ	乳歯と永久歯の違いを理解する
28	乳歯の形態学的特徴	各乳歯の形態的特徴を学ぶ	乳歯の形態的特徴を理解する
29	特色のある歯の形態	典型的な形態とは異なる歯について学ぶ	特色ある歯の形態について理解する
30	歯列と咬合	歯列弓、歯牙彎曲の定義と、歯の殖立、対向関係、隣接歯の関係を学ぶ	歯列弓、歯牙彎曲の定義、歯の殖立、対向関係、隣接歯の関係を理解する

評価方法 定期試験60%以上の得点

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	栄養指導 I
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	森田 洋子

学習目標 生化学の基礎を学習し、栄養学や食生活の重要性について理解し、歯科衛生士として口腔の健康を維持・増進するための科学的かつ系統的な栄養指導ができる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	生命活動の概要	生体の構成要素	生命の基本である細胞の構造などを理解する
2	生体構成成分と栄養素	糖質、脂質の構造と種類、タンパク質の構造と役割、ビタミン、ミネラル	生体の構成成分の栄養素について理解する
3	生体における化学反応	消化と吸収、代謝	消化管で起こる栄養素の消化および吸収について理解する
4	糖質、脂質、タンパク質の代謝	エネルギー代謝の全体像、タンパク質とアミノ酸の代謝	エネルギー代謝の全体像を理解する 糖質、脂質、タンパク質の代謝を理解する
5	栄養の基礎知識	食生活と栄養	健康維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知る 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を学ぶ
6	栄養素の消化と吸収	消化作用の種類、栄養素の消化、栄養素の吸収	栄養素の消化・吸収の基本を知る
7	食事摂取基準	推定エネルギー必要量、基礎代謝	食事摂取基準とは何かを知る 推定エネルギー必要量の求め方、摂取量の評価方法を知る
8	日本人の食事摂取基準	「日本人の食事摂取基準」の意義、基本的な活用方法	「日本人の食事摂取基準」の意義や活用方法を理解する
9	栄養素の働き	糖質の栄養的意味、タンパク質の栄養的意味	食品から摂取している糖質、タンパク質の生体での役割を理解する
10	栄養素の働き	脂質の栄養的意味、ビタミン、ミネラル、水、食物繊維の栄養的意味	脂質、ビタミン、ミネラル、水、食物繊維の生体での役割を理解する
11	食生活と健康	国民の健康と栄養の現状、食生活改善の取組	食生活と健康との関連についてマクロな視点で把握し、健康の維持・増進を進めるための栄養指導の必要性について理解する
12	望ましい食生活	食事バランスガイド(1)	食事バランスガイドを理解する
13	望ましい食生活	食事バランスガイド(2)	自分の食事をバランスガイドを活用して評価する
14	食生活と健康	特別用途食品制度、食育基本法、食生活指針	特別用途食品制度、食育基本法、食生活指針を理解する
15	ライフステージ別の栄養と調理 食べ物と健康	ライフステージ別の栄養と調理 食品の成分と分類	ライフステージに応じた栄養と調理の特性を理解する 食品の3つの機能性について理解する 健康づくりのための食事計画の進め方について学習する 食品の特性を理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

科目名	薬理学・口腔薬理学
授業形態	講義(教科書に即してスライドやプリントを参照させながら進める)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	五十嵐 健人

学習目標 薬物と生体の相互作用について理解する
代表的な薬物の名称、作用機構、また用いる疾患について理解する
歯科医療で用いられる薬物については特に深い理解を求める

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	総論1	薬物学概念・薬物療法・用量と作用	薬理学とは何か、薬物の分類について理解する
2	総論2	薬物作用機構、体内動態	薬物がどのように効果を表すかについて理解する
3	ビタミンとホルモン	ビタミン、ホルモンと薬	ビタミン、ホルモンに関する薬について理解する
4	末梢神経と薬	末梢神経系概論・自律神経系関連薬	自律神経系とこれに作用する薬について理解する
5	中枢神経薬	神経系概論・全身麻酔薬・催眠薬	中枢神経系および全身麻酔薬・催眠薬について理解する
6	循環器・腎臓に作用する薬	循環器の疾患および薬物	高血圧など循環器の薬
7	呼吸系と薬/消化器系に作用する薬	呼吸系の疾患および薬物、消化器系に作用する薬	喘息など呼吸系の薬、消化器系に作用する薬について理解する
8	血液と薬・免疫と薬	血液凝固系および止血薬・抗凝固薬	止血薬・抗凝固薬などの薬について理解する
9	悪性腫瘍薬・代謝性疾患治療薬	悪性腫瘍と薬、糖尿病、骨粗鬆症	抗悪性腫瘍薬、糖尿病、骨粗鬆症治療薬について理解する
10	炎症と薬	炎症の機序と抗炎症薬	解熱鎮痛薬などについて理解する
11	鎮痛薬/局所麻酔薬	鎮痛薬、局所麻酔薬	オピオイド鎮痛薬、局所麻酔薬について理解する
12	抗感染症薬	感染症の病原体と対応する薬物	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬について理解する
13	消毒薬/う蝕予防薬	消毒の概念・歴史、消毒薬各論	消毒の概念、各種消毒薬について理解する
14	歯内疾患治療薬/歯周疾患治療薬	齶蝕、歯周疾患と薬物	う蝕消毒、覆髄、知覚過敏などに関する薬について理解する
15	顎・口腔粘膜疾患と薬	口腔粘膜疾患と薬、歯科領域の薬物副作用、服薬指導、漢方薬	口腔粘膜疾患に対する薬、薬物副作用などと漢方薬について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学(第2版)」(医歯薬出版株式会社)
・その他にプリントなど

実務経験

科目名	病理学・口腔病理学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	近藤 智之

学習目標 人体における疾患の原因、発生機序、転帰についての基本的な考え方と知識を習得し、疾病の予防、診断、治療などの臨床医療との関連性についても理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	病因論・奇形・遺伝子疾患	疾病の原因(内因と外因)、多因子疾患、素因、奇形の定義、発生について	病気の原因と成り立ち、奇形の定義、成り立ちと遺伝性疾患を学ぶ
2	退行性病変(代謝疾患)	細胞障害、細胞死、および物質代謝障害	細胞傷害と物質代謝障害の組織形態変化を学ぶ
3	進行性病変(増殖と修復)	細胞の増殖機構、組織修復、肉芽組織、肥大	細胞増殖と組織修復を理解する
4	循環障害	全身の循環障害、血管内容の異常、血流の異常、塞栓症	全身と局所の循環障害を学ぶ
5	炎症、免疫	炎症における組織変化、免疫機構、自己免疫疾患	炎症と免疫の成り立ち、経過を理解する
6	腫瘍	腫瘍の定義、発生機構、分類、生物学的性質	腫瘍の定義と発生機構、および性質を学ぶ
7	歯の発育異常と損傷	歯の形態異常と、物理的、化学的損傷	歯の発育異常とその原因、また損傷の原因と組織形態変化を理解する
8	齶蝕と歯髓の病変	齶蝕の病因論や分類、組織形態変化と象牙質・歯髓複合体の病変	齶蝕と象牙質・歯髓複合体病変の発生と分類、伸展を学ぶ
9	齶蝕続発病変	齶蝕に続発する歯髓炎、根尖性歯周炎、病巣感染	齶蝕続発性病変を理解する
10	病変の治癒	歯科治療に伴う治癒に関わる病理組織学的特徴	各種治療に伴う治癒の病理組織学的特徴を学ぶ
11	口腔粘膜疾患、嚢胞	口腔粘膜疾患の分類と特徴、菌原性および非菌原性嚢胞	口腔粘膜疾患および嚢胞の分類と種類を学ぶ
12	前癌病変と腫瘍	口腔内の前癌病変と口腔癌、腫瘍	口腔内に発生する腫瘍と腫瘍様病変を学ぶ
13	その他の口腔病変	顎骨病変、唾液腺疾患、口腔領域の奇形	顎顔面奇形や顎骨病変、唾液腺疾患等の口腔病変を学ぶ
14	加齢・全身疾患と口腔病変	加齢や全身疾患・症候群と関連する口腔病変	加齢に伴う生理的変化、また全身疾患で口腔病変を伴うものを学ぶ
15	総合演習	質疑応答・問題演習	問題演習、質疑応答を行う事により、総合的な理解を深める

評価方法 定期試験により評価する

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	微生物学・口腔微生物学
授業形態	講義(テキストに準拠)
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間 2単位
授業担当者	牧角 麻未

学習目標 微生物の概要を教え、歯および口腔の常在微生物、更に関連する感染症について充分理解させる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	疾病と微生物	病原微生物の発見、感染と感染症	疾病と微生物について理解する
2-7	微生物の病原性	微生物の分類・性状・病原性	微生物の性状と特性を理解する
8-12	宿主防御機構と免疫	免疫とは、免疫の機構、アレルギー	免疫とアレルギーについて理解する
13-14	口腔微生物学	口腔細菌叢、プラーク	口腔内常在微生物について理解する
15-17	口腔感染症	齶蝕、歯内感染症、歯周病	口腔感染症について理解する
18	化学療法	化学療法剤の特徴、薬剤耐性、おもな化学療法剤、化学療法剤の選択と副作用	化学療法の定義、薬剤耐性、化学療法剤について理解する
19	院内感染対策と滅菌・消毒	滅菌と消毒の定義、方法	滅菌と消毒の違い、特徴を理解する
20	細菌培養と顕微鏡観察	細菌の培養、顕微鏡観察方法	微生物の培養、観察方法を理解する

評価方法 定期試験60%以上の得点

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	看護概論
授業形態	講義
開講時期	2年前期・2年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	松成 裕子・猜山 真由美・猿渡 和子・鈴木 真由美 下松 裕子・紺屋 ゆかり

学習目標 看護の概念を理解し、看護の機能・役割・活動について学ぶ
看護における対象に応じた接し方、方法について学習する
看護に必要な観察技術について学ぶ。救急時の看護について理解し、その対応の方法を学習する
看護を学ぶことによって、歯科衛生士の役割について考え、その対応に活用することができる
吸引について(口腔内、気管内)、電法について

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	看護の概念	看護の定義、人間とは、健康とは、看護の対象、看護の役割、歯科衛生士とは	看護の目的を理解し、看護の役割についてわかる 歯科衛生士の役割について考えることができる
2	対象の理解	人間の発達段階、発達段階とその特徴、発達段階に応じた接し方	看護の対象を理解し、対象に応じた接し方がわかる
3	看護技術・看護過程	看護技術とは、看護過程とは、観察、コミュニケーションによる情報収集	看護過程の概要を理解し、情報収集のための観察、コミュニケーションの方法がわかる
4	観察の技術 バイタルサインズ1	体温、呼吸、脈拍、血圧とは、正常な値、それぞれの異常、電法	身体の機能である体温、呼吸、脈拍、血圧の正常な値とそれぞれの異常について理解し、体温異常時の対応についてわかる
5	観察の技術 バイタルサインズ2	バイタルサインの測定方法	バイタルサインの測定意義を理解し、正しく測定できる
6	観察の技術(技術演習)	体温、呼吸、脈拍、血圧の測定	バイタルサインが正しく測定できる
7	その他の看護技術 (技術演習)	電法について、吸引について(口腔内、気管内)、吸入について	電法について、実施できる。口腔内吸引について、実施できる。酸素吸入の方法について理解し、気管内吸引の対応の方法がわかる
8	その他の看護技術	電法について、吸引について(口腔内、気管内)、吸入について	対応が必要な症状について理解し、その対応の方法がわかる
9	救急時の看護	診療室における救急法について、心肺蘇生法について、一次救命処置、AED、心電図について、神経性ショック、過換気症候群	緊急なことが生じた場合には、応援要請ができる。心電図、心肺蘇生法について理解し、一次救命処置およびAEDの使い方がわかる。緊急に対応が必要な症状について理解し、その対応の方法がわかる
10	有病者歯科治療	主な疾患のケア、特殊なケア	主な疾患のケアについて学び、特殊なケアについて理解を深める
11	有病者歯科治療	主な疾患のケア、特殊なケア	主な疾患のケアについて学び、特殊なケアについて理解を深める
12	機能障害別の捉え方	機能障害別の患者のケア	食事摂取障害、口腔外科的患者、廃用症候群の老人リハビリについて理解を深める
13	機能障害別の捉え方	機能障害別の患者のケアと保清、顎間固定	発音・呼吸・審美障害とそのケア、口腔外科患者のケア、顎間固定、圧迫包帯について理解する
14	口腔外科患者のケア	口腔外科患者のケアおよび患者指導	口唇口蓋裂児の治療の流れ、Ope前後のケア、抑制筒、哺乳指導及び口腔外科小手術受診患者の生活指導について理解する
15	包帯法の実習	包帯法およびこれからの看護	環行帯、らせん帯での巻き方、三角巾の使い方及び、これからの看護について理解する

評価方法 最終段階では、記述式試験により80%で評価する。技術演習における実施手技により到達度を20%で評価する
随時、課題と質問によって、理解度を評価し、進める
定期試験における学科試験を行う

参考図書等

- ・「歯科衛生士のための看護学大意(第3版)」全国私立歯大・歯学部付病院看護部長会編(医歯薬出版株式会社)
- ・資料は随時提供する

実務経験

- ・本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である

科目名	臨床検査法
授業形態	講義(教科書に即してスライドやプリントを参照させながら進める)
開講時期	2年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	多田 亮平

学習目標 異常値の出るメカニズムと疾患を理解し、治療に際してのサポートが出来るようになる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	臨床検査概論	データの取り扱いなどの概略	データの取り扱いを理解する
2	生理検査	バイタルサイン、生理検査、検体検査	バイタルサインとは何か、生理検査、検体検査について理解する
3	尿検査	腎機能、尿の生成と異常値の起こるしくみ	腎機能、尿の生成と異常の起こるしくみを理解する
4	血液検査	血球の種類・働き、血液型について	血球の種類・働き、血液型検査法を理解する
5	血液検査	貧血、出血性素因の起こるしくみとその検査	貧血、出血性素因の起こるしくみと、検査法を理解する
6	感染症検査	感染の起こるしくみとその検査、院内感染予防	感染症と院内感染予防について理解する
7	肝機能検査	肝機能障害の起こるしくみとその検査	肝機能障害とその検査法を理解する
8	糖尿病検査	糖尿病の起こるしくみとその検査	糖尿病の種類と糖尿病の検査法を理解する
9	病理検査、口腔領域の検査	病理検査の特殊性について、齶蝕活動性試験の意義	病理検査とその方法について理解する
10	総まとめ	国家試験に対応した演習	国家試験に向けて理解を深める

評価方法 試験、小テスト、レポートなど

参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「臨床検査」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅰ
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	林川 貴志

学習目標 口腔の健康とその意義、全身の健康につながる口腔の機能等と歯科衛生士について理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	口腔衛生学の概要	口腔衛生学の意義、概念。口腔と健康	口腔衛生学の全体像を理解して、それに携わる歯科衛生士の役割について理解する
2	歯科疾患予防、口腔の機能	予防の3相5段階、咀嚼、摂食・嚥下など	第1次、第2次、第3次予防。口腔のさまざまな機能を理解する
3	歯・口の発育と変化	歯の成長	歯の誕生から永久歯列完成までのプロセスを学ぶ
4	歯・口の発育と変化	歯の喪失、形成期の栄養、形成異常	歯の喪失に関するデータの理解、歯・口腔の異常
5	口腔環境	唾液のはたらき、口腔内常在微生物	おもに唾液の働きを理解し、口腔内微生物について学習する
6	歯、口腔の不潔	プラーク(歯垢)	プラークの成熟、為害作用
7	歯、口腔の不潔	歯石	歯石の成熟について学習し、その歯周組織に対する影響を理解する
8	歯、口腔の不潔 口腔と全身の関係	着色、舌苔。口腔疾患が全身に及ぼす影響について	歯・口腔疾患と全身疾患の関わりを学習して、いかに深いつながりがあるかを理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－(第4版)」(学建書院)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅱ
授業形態	講義(教科書を中心に講義する)
開講時期	2年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	山口 泰平

学習目標 う蝕およびその予防法についての基本的な事項を理解し、専門職として臨床および保健の現場で活躍できる基礎を身につける

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	I う蝕の現状と発症機序	う蝕罹患の現状、う蝕の発症機序、診断基準	う蝕罹患の現状と、発症機序について理解する
2	II う蝕リスク診断法	う蝕活動性試験の考え方、種類、結果の活用方法	う蝕リスクの診断法について理解する
3	III 予防方法	第一次、第二次、第三次予防と、歯科に特異的な具体的事項	予防医学レベルの概念について理解する
4-5	IV フッ素の分布と毒性	自然界でのフッ素の分布と代謝、毒性、歯牙フッ素症(斑状歯)	フッ素の特性について理解する
6-7	V フッ化物応用法	フッ素とう蝕の関係、フッ化物の予防機序、フッ素の応用方法、フッ化物応用の世界の状況	フッ化物を応用した、う蝕の予防法について理解する

評価方法 定期試験60%以上の得点

参考図書等

・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－(第4版)」(学建書院) ・新歯科衛生士教本「口腔衛生学・歯科衛生統計」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学Ⅲ
授業形態	講義
開講時期	1年後期・2年前期
時間数・単位	26時間 1単位
授業担当者	林川 貴志

学習目標 学校歯科保健・産業歯科保健・成人歯科保健活動の知識を深め、歯科衛生士としての関わりを学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	地域口腔保健活動とは	地域口腔保健活動について理解する。ヘルスプロモーションとは	地域口腔保健活動の意義を十分理解して、活動の進め方・目標を知る
2	ライフステージ別の歯科口腔保健の概要	口腔保健サービスの概要、問題解決のプロセス、国家統計調査	戦後の地域口腔保健活動の変遷を学習して、ライフステージごとの保健指導について理解する。活動における歯科衛生士の役割について学習
3	地域口腔保健のあゆみ	歴史。8020運動。保健所と保健センター	戦後の歯科保健施策の推移を学ぶ。地域保健を実現するための行政システムを知る
4	8020運動、健康日本21(2次)、健康増進法	成り立ち、現状、将来像	それぞれの関係を理解して、活動による成果を学習する
5	学校歯科保健①	学校保健活動とは。学校病について	学校保健委員会と学校歯科医について理解する。学校病の内容を学習
6	学校歯科保健②	学校保健関係者について	保健活動に従事する常勤学校職員を知る。非常勤学校職員としての学校歯科医の役割を学ぶ
7	学校歯科保健③	学校歯科健康診断、事後措置、健康相談	学校における健診のシステム、内容を熟知する。健診後の対応が大切であることを理解する
8	学校歯科保健④	学校保健の現状	産業歯科保健に関連する法律、問題点。その中で歯科衛生士がどのような活動をしていくか
9	産業歯科保健①	産業歯科保健の概要。法律	歴史、関連法律について学び、データを基に社会においていかに大切な活動であるかを知る
10	産業歯科保健②	職業性歯科疾患の各論、酸蝕症を中心に	職業性歯科疾患にはどのようなものがあるか、またその因果関係を知る
11	産業歯科保健③	産業(歯科)保健対策および保健管理	管理体制、産業(歯科)医、衛生管理者について理解する
12	産業歯科保健④	事業所歯科健康診断、職域での口腔健康管理	職域での歯科健康診断にはどのようなものがあるか、その重要性について理解する
13	まとめ	健康日本21(2次)、健康増進法、生活習慣病	現在の歯科保健状況、今後の見通し、目標について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－(第4版)」(学建書院)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学IV
授業形態	講義
開講時期	3年前期
時間数・単位	10時間 1単位(大久保先生の分と合わせて1単位)
授業担当者	新中須 真奈

学習目標 地域歯科保健活動の概念を理解し、その活動の基盤となる法律や、母子歯科保健の意義と歯科保健指導の進め方について知識を習得する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	地域歯科保健活動	地域歯科保健活動の意義と歯科衛生士の役割	地域歯科保健の特徴を把握し、地域保健における歯科衛生士の役割を理解する
2	地域における口腔保健業務	地域における口腔保健業務と関連する法律	地域保健・健康増進対策の法体系と歯科口腔保健法について理解する
3	母子歯科保健	母子歯科保健の意義と妊産婦の歯科保健指導	母子歯科保健の意義と、妊産婦の歯科保健指導を理解する
4	1歳6ヶ月児健康診査 3歳児健康診査	1歳6ヶ月児、3歳児健康診査と乳幼児期の歯科保健指導	1歳6ヶ月児・3歳児健康診査の意義と、乳幼児期の歯科保健指導を理解する
5	まとめ	鹿児島市の歯科口腔保健	歯科保健の実態調査や鹿児島市の歯科保健データを通じて、本市の現状及び今後の方向性を理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－(第4版)」(学建書院)
- ・配布物プリント(歯科保健データ等)

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	口腔衛生学IV
授業形態	講義
開講時期	2年後期
時間数・単位	12時間 1単位(新中須先生の分と合わせて1単位)
授業担当者	大久保 章朗

学習目標 高齢者歯科保健・高齢者保健事業の知識を深め、歯科衛生士としての関わりを学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	老人歯科保健の概要	高齢者歯科保健の概要	高齢者の特徴の把握をし、高齢者歯科保健の概要について知る
2	成人歯科保健 障害者歯科保健	成人歯科保健と障害者歯科保健の概要	歯周病検診、特定健康診査・特定保健指導を理解する。障害者歯科保健と障害者歯科医療について理解する
3	医療制度と老人歯科保健	後期高齢者医療制度と高齢者歯科保健	後期高齢者医療制度について理解し、老人歯科保健の現場活動について知識を得る
4	介護予防・介護保険における 歯科保健	介護予防・介護保険における高齢者歯科保健	介護予防・介護保険における歯科の関わり的重要性について学ぶ
5	訪問診療と訪問歯科衛生指導	訪問診療と訪問歯科衛生指導の概要と実態	訪問診療と訪問歯科衛生指導の意義と内容について知識を深め、医科、看護、介護などの関わりについて理解する
6	口腔機能向上の実際	口腔機能向上の実際	口腔機能向上の方法とその評価法を学ぶ

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

- ・歯科衛生士テキスト「口腔衛生学－口腔保健統計を含む－(第4版)」(学建書院)
- ・「のぼそう健康寿命」辻一郎著(岩波アクティブ新書)
- ・「口腔ケア入門」(鹿児島県歯科医師会)

実務経験

- ・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	歯科衛生統計学
授業形態	講義・演習
開講時期	3年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	鶴田 実穂

学習目標 歯科衛生士として基本的な統計の知識を身につけるとともに、各種統計資料を正しく理解することができる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	保健情報と保健統計	統計	保健情報と保健統計について理解する
2	保健情報と疫学①	疫学	保健情報と疫学について理解する
3	疫学②	スクリーニング	スクリーニングについて理解する
4	歯科疾患の指数	指数	歯科疾患指数について理解する
5	保健情報の分析手順	情報収集、調査	保健情報の情報収集、調査の仕方について理解する
6	保健統計の方法	演習	統計を演習問題を通して理解する
7	保健情報の分析演習	演習	統計を演習問題を通して理解する
8	情報の保健と倫理	倫理	倫理について理解する

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	衛生学・公衆衛生学
授業形態	講義
開講時期	2年前期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	安藤 哲夫

学習目標 公衆衛生学の主要な仕組み・仕様を知り、それを実際に適応・使用できる。具体的には、新聞報道などでの公衆衛生および健康問題を理解することが出来、さらに「自分なら」の対応法を挙げることが出来るのが目標である

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	衛生・公衆衛生学総論Ⅰ	健康の概念 健康とは、生活習慣と健康、PHCとHP	健康の概念を知り、健康獲得にとってPHCとHPが大切であることを知る
2	衛生学・公衆衛生学総論Ⅱ	予防医学の概念 疾病の自然史と予防法の適用	一次予防・二次予防・三次予防の内容を知り、健康の維持・管理を知る
3	疫学	疫学の定義および概要 疫学とは 異常の発生 異常の指標	疫学によって何が分かるか、逆に疫学の限界とは何かを知る
4	疫学	疫学の方法 記述疫学 分析疫学 介入研究	何を目的に疫学の方法を選択するのかを知る
5	人口	人口の動向 人口動態統計 生命表	人口構造を知り、公衆衛生の向上のために何が必要かを知る
6	健康と環境	環境の概念 物理化学的環境要因 生物学的環境要因	環境要因と健康との関わりを知って、健康増進法を探る
7	健康と環境	地球環境の変化と健康への影響 地球温暖化 酸性雨 オゾン層破壊	人間活動が地球環境にどのように影響しているのかを知る
8	健康と環境	地域環境の変化と健康への影響 四大公害 典型七公害	過去にわが国で発生した公害の歴史を知り、同じ過ちを後世に残さない方法を探る
9	感染症	感染症の成り立ち 感染症の予防 感染症の動向	感染症成立の三要因を知り、予防法の基本を知る
10	食品と健康	食中毒 栄養と健康	食品衛生としての食中毒の動向を知り、さらに健康づくりとしての食生活のあり方を知る
11	地域保健・公衆衛生	地域保健の組織 地域保健の新しい概念 地域保健活動の進め方	地域保健行政としての公衆衛生活動の現状を知り、問題点を知る
12	地域保健・母子保健	母子保健の意義および概要 母子保健 母子歯科保健	地域保健行政としての母子保健活動の現状を知り、問題点を知る
13	地域保健・成人/老人保健・生活習慣病	成人/老人保健の意義 ゴールドプラン21 介護保険	地域保健行政としての成人/老人保健活動の現状を知り、問題点を知る
14	産業保健	産業保健の意義 職業病 産業保健活動	労働者の健康管理の現状を知り、問題点を知る
15	学校保健・精神保健・国際保健	学校保健の意義 精神保健の意義 国際保健の意義	学校/精神/国際保健活動の現状を知り、問題点を知る

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学(第3版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

科目名	衛生行政
授業形態	講義
開講時期	3年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	鍛冶屋 亮彦

学習目標 地域社会において、歯科保健医療の業務に従事するものとして、必要な知識を学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	法制概論と衛生行政の概要	法の定義、種類、分類、衛生法規と衛生行政の目的・組織について	法と衛生行政について理解する
2	医療の動向	国民の医療動向、医療施設、医療関係職種、国家統計	国民の医療動向、統計について理解する
3	歯科衛生士法①	歯科衛生士法の成立・目的・定義・業務	歯科衛生士法についてその内容を理解する
4	歯科衛生士法②	免許・義務について・過去の国試の問題演習	〃
5	歯科医師法・歯科技工士法・医療法	歯科医師法、歯科技工士法、医療法の定義・義務その他内容について	歯科医師法、歯科技工士法、医療法についてその目的と内容を深く理解する
6	医療従事者関係法について	歯科医療と関わる医療関係者の法規について	医療従事者に関する法律を理解する
7	薬事衛生法規・保健衛生法規・予防衛生法規	薬事、保健、予防衛生法規の目的、定義、内容について	薬事、保健、予防衛生法規について理解する
8	まとめ、補足	衛生行政全体についての概要とまとめ・国試問題演習	衛生行政についてその体系、組織についてさらに理解を深める

評価方法 定期試験による学科試験を行う

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度(第3版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	社会福祉・社会保険・社会保障
授業形態	講義
開講時期	3年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	水流 純大

学習目標 現代社会における、社会保険の成り立ちと内容・役割、社会福祉の制度と役割を学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要を理解する。特に、社会保障と社会保険、社会福祉の関係性を理解する
2	社会保険制度の概要	社会保険制度の概要	社会保険制度の仕組み、種類等を理解する
3	医療保険制度の概要①	医療保険制度の概要①	医療制度改革、医療保険の種類等について理解する
4	医療保険制度の概要②	医療保険制度の概要②	健康保健法、国民健康保健法、審査支払機関等について理解する
5	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要	介護保険制度の仕組み、サービス内容等について理解する
6	社会福祉制度の概要	社会福祉制度の概要	社会福祉の実施体制と財政、利用者負担の仕組み等を理解する
7	社会福祉制度の内容	生活保護、障害者福祉、児童福祉の概要	生活保護制度、障害者福祉、児童福祉等についてその概要を理解する
8	社会福祉・社会保険・社会保障制度のまとめ	社会福祉・社会保険・社会保障制度のまとめ	これまでの講義を振り返って、重要ポイントの復習とまとめを行う

評価方法 学科試験を行う(100点満点で60点以上を合格とする)

参考図書等

・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度(第3版)」(医歯薬出版株式会社)

実務経験